

[将来像] 5 地域と共に持続する産業を育む

地域資源を生かした個性ある地場産業やツーリズム、力強い農林水産業が、地域に活気をもたらしている。また、身近な地域商業や、高齢化に対応した新しい生活産業が活性化し、住民の暮らしを豊かにしている。

キーワード

- ・ 地場産業の高付加価値化
- ・ 地域資源型ツーリズム
- ・ 農林水産業の経営基盤強化
- ・ 農林水産業の6次産業化
- ・ 高齢社会を支えるしごと創出
- ・ 商店街を生かした地域づくり
- ・ 身近な地域商業の再生



夢提案

- ・ 「安全な食」をキーワードに県内の企業群を育て、大学の研究もまきこんで、徹底的に先端産業の連携を進めていく。そこでの雇用が大きな活性化の力になる。
(兵庫みらいフォーラム参加者)
- ・ 地産地消をめざす。その地域だけの特産品を開発し、ほかの人にも食べてもらう。
(県立社高校生)



将来像のあらし

(1) 地域産業が固有の付加価値により発展し、地域の魅力を高めている

ものづくりの技術力やデザイン、サービスを生かした高付加価値化により、地場産業などのブランド力が向上している
歴史や風土、生活文化に息づく地域資源が再発見され、地域の新しい活力を生み出している

(2) 多彩な地域資源をつなぐツーリズムで地域ににぎわいが生まれている

兵庫・関西の多彩な地域資源を「物語」でつなぐツーリズムにより、国内外から誘客が拡大し、地域に新しい交流と活気を生み出している

(3) 高度な経営基盤により力強い産業としての農林水産業が再生し、食の自立を支えている

集落営農や企業参入などによる農地利用集積の拡大、上下流連携のしくみづくりなどにより、効率的で安定的な農林水産業の経営基盤が確立している
高品質で安全安心な県産農林水産物のブランド化や6次産業化の推進により、地産地消が広がるとともに、国内外に販路が拡大している

(4) 暮らしを豊かにする新たな生活産業が成長するとともに地域商業が再生している

高齢社会のニーズに対応し、暮らしをより豊かにするさまざまな生活関連サービスが生まれ、地域を支えている
空き店舗の活用やさまざまな地域産業との連携により、多様な消費者のニーズと、地域のまちづくりに対応した地域商業の再生が進んでいる

(1)地域産業が固有の付加価値により発展し、地域の魅力を高めている

ものづくりの技術力やデザイン、サービスを生かした高付加価値化により、地場産業などのブランド力が向上している

- 地場産業など地域固有のものづくり産業が、産学・産産連携を通じて独創的なデザインやサービス、情報通信技術などと融合し、ブランド力を高めている。
- 多品種少量生産のものづくりや、地域ならではの細やかなサービスなど、消費者の多様なニーズに対応した小さなビジネスが成長している。

始まっている取組等

<地域固有の産業の価値を再発見>

- ・兵庫県には45（平成22年度）の地場産業が集積しており、中でも播州織、利器工匠具、鞆などは地域の生産、雇用などに占める比重が高く、地域で重要な役割を果たしている。また、清酒、手延素麺、ケミカルシューズのように高い知名度を有し、全国有数の生産規模を誇る地場産業も多い。

【全国的に主要な地位を占める兵庫の地場産業】

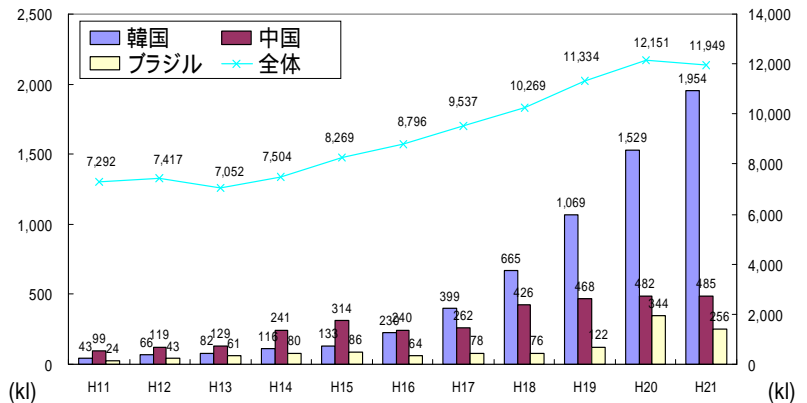
分類	内 訳	県内・産地生産金額			全国比 (%)	全 国 順 位		
		企業数	従業員数 (人)	生産金額 (百万円)		1 位	2 位	3 位
食料品	手延素麺(播州)	489	2,542	16,266	43	【兵庫】	長崎	香川
	清酒(灘五郷)	30	1,667		27	【兵庫】	京都	新潟
織 維	綿織物(播州織)	261	1,073	39,748	11		大阪	【兵庫】
化 学 ・ 雑 貨	皮革(一次製品)	281	2,063	38,378	58	【兵庫】	山形	東京
	ケミカルシューズ	112	3,020	46,980	37	【兵庫】	大阪	奈良
	マ ッ チ	19	334	2,270	93	【兵庫】		
	線 香	16	436	12,886	70	【兵庫】	京都	栃木
	そろばん	32	38	130	70	【兵庫】	島根	
	杞柳製品	35	61	257		【兵庫】		
	鞆	142	1,121	9,142		【兵庫】	東京	大阪
窯 業	粘土瓦(総計)	108	720	4,413	10	愛知	島根	【兵庫】
機 械 ・ 金 属	鎖	28	347	1,400		【兵庫】		
	利器工匠具	384	3,436	53,736		【兵庫】	新潟	岐阜
	釣 針	78	820	10,792	90	【兵庫】		

(出典：兵庫県の地場産業（平成22年度版）を基に兵庫県ビジョン課作成)

【清酒の海外向け輸出実績（数量）の推移】



県立工業技術センターと特産品開発（のじぎく茶）に取り組むなど、技術支援・高付加価値化による地域産業の再生に向けた挑戦が進んでいる。



(出典：日本酒造組合中央会資料を基に兵庫県ビジョン課作成)

= 「線香」の新しい魅力発見（淡路） =

全国の線香の約7割を出荷する淡路市一宮地区。地元商工会と協同組合が、淡路島線香のブランド確立のためのプロジェクトを協働で立ち上げた。

中小企業庁の「JAPANブランド育成支援事業」にも認定され、香りの本場フランスをはじめ、海外での販路開拓に取り組んでいる。線香は仏事用という固定概念を超え、生活の中で楽しむ「お香」として展開している。



香りを楽しむアロマ製品として新展開を図る線香

<地域ならではのものづくりやサービスの展開>

- ・地元産の食品や木材などの恵まれた地域資源を活用し、多様化する消費者ニーズに対応した「多品種少量生産」のものづくりや、地域の企業ならではのきめ細かなサービスとの組み合わせなどに取り組んでいる企業がある。
- ・また、地域発のものづくりやサービスを生かしながらか国内外に向けて積極的な販売戦略を展開する企業も多く生まれている。

= オーダーメイド車いすを提供（神戸） =

車いす、医療機器などの製造販売と輸出入を手がける県内企業では、これまで納期に2～3ヶ月を要していたオーダーメイド車いすを2週間以内に届けることができる「2週間オーダーメイドシステム」を独自開発した。

= 地場産業とセレクトショップとのコラボレーション =

神戸市内のセレクトショップと地場産業が共同プロジェクトを実施している例がある。

感性を生かしてユーザーと直接つながるセレクトショップと、産地の企業が共同で商品を開発し、神戸市内のアンテナショップで、商品の展示販売を実施した。これまでにない若い客層の消費者の発掘に結びついた。



共同開発商品の例（肌着）

県民の意見

- 兵庫県は大きな県で、北・南・東・西とすごく個性的。独自の文化もある。それぞれの地域での取組がいっぱい出てきて、非常に強い力も秘めている。（兵庫みらいフォーラム）
- ハイテクでない分野において海外で勝てるのは、「対応がよい」から。顧客から要求への対応、メンテナンスなどきめ細かいサービスを一体で行えるか、といった点が決め手。（県内企業）

取組の視点

地場産業の価値を高める技術・デザインなどとの融合
多種多様なニーズに対応するサービスとの融合
国内外に展開する販売戦略の促進

- (1) 歴史や風土、生活文化に息づく地域資源が再発見され、地域の新しい活力を生み出している
- 地域景観、芸術文化、食文化、多自然地域のライフスタイルなどが、新しい地域資源として注目を集めている。
 - 住民が主体となり、地域に息づくあらゆる資源の積極的な活用が進み、国内外のさまざまな層に受け入れられている。

始まっている取組等

<地域固有の生活文化が新しい地域資源に>

- ・古くから地域に息づいている「暮らし」そのものが、心の癒しや豊かさにつながる地域資源として注目されている。

= 古民家を活用した民宿（篠山） =

丸山地区では、空き家となった古民家を滞在施設として運営。地元の自然食材を使った料理を堪能できるほか、農業体験や料理教室、茶道や華道、陶芸体験、城下町の散策、修験道トレッキングなども楽しめる。



古民家を地域資源として活用（篠山）

= ご当地グルメでまちおこし（姫路） =

2011年（平成23年）11月に、B-1グランプリ in Himeji が開催。B-1グランプリは、味はA級、値段はB級で、安くて美味しい地域独特のご当地グルメを「B級ご当地グルメ」と定義して、全国で開催されている。

近年、B級ご当地グルメなど、地元の食文化をまちおこしにつなげる動きが活発化。食で地域ブランドの確立をめざす地域団体なども増えている。



B-1グランプリ開会式

<映画の舞台として注目される地域づくり>

- ・県内の自然豊かな風景や、情緒あふれるまちなみなどが、フィルムコミッションや市民ボランティアなどのサポートによりドラマ・映画などのロケ地として脚光を浴びている。

専門家の意見

- 神戸のように山があって海がある、映画やテレビで言う「フォトジェニック」（カメラ映りがよい）というのは作り手にとってはすごく魅力的だし、求められるものだと思う。（映画制作プロデューサー）



映画「ノルウェイの森」（村上春樹著）のロケ風景（神河）

取組の視点

隠れた地域資源の発掘と発信

(2) 多彩な地域資源をつなぐツーリズムで地域ににぎわいが生まれている

兵庫・関西の多彩な地域資源を「物語」でつなぐツーリズムにより、国内外から誘客が拡大し、地域に新しい交流と活気を生み出している

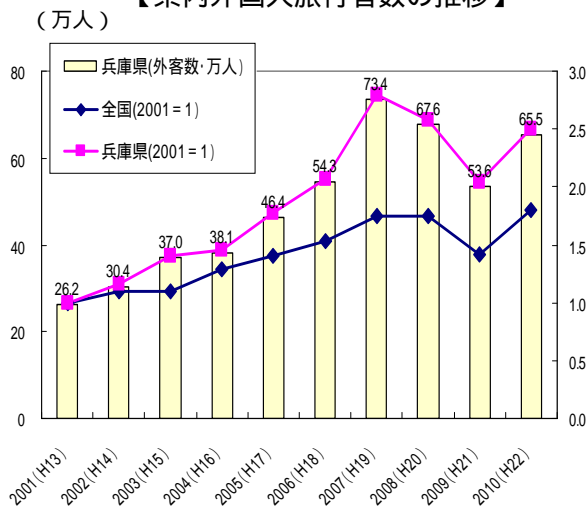
- 自然環境、農林水産品、療養地、名所旧跡、産業遺産などの観光資源が地域固有の「物語」で結びつき、国内外からの誘客が拡大している。
- 住民自身の参画によるホスピタリティ（おもてなし）の高まりにより、ツーリズムから広がる新しい交流と活気生まれている。
- 大都市との近接性や関西共通の歴史・文化、交通・物流基盤などを生かし、特色ある観光資源を広域的につなぐツーリズムが展開している。

始まっている取組等

<外国人旅行者は減少するも持ち直しの傾向>

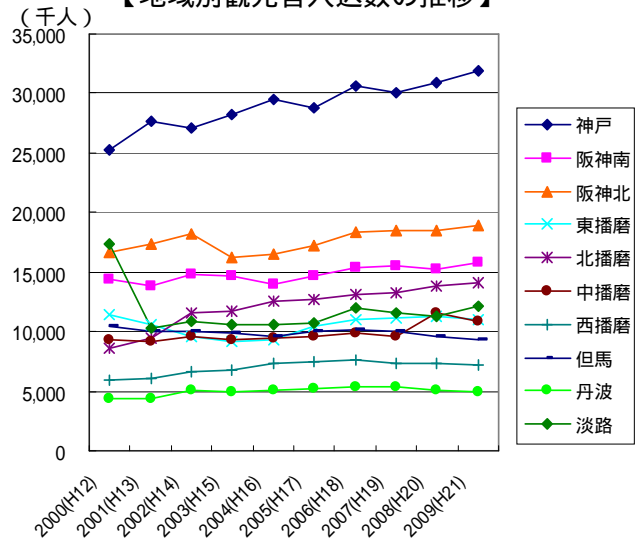
- ・国内・県内の外国人旅行者は2007年（平成19年）をピークに減少したものの、2010年（平成22年）には持ち直している。県内地域別にみると、おおむね横ばいか微増しており、神戸地域ではゆるやかに増加している。

【県内外国人旅行者数の推移】



(出典：訪日外客実態調査(国際観光振興機構))

【地域別観光客入込数の推移】



(出典：観光客動態調査(平成21年度兵庫県産業労働部))

<産業遺産などの地域資源を「物語」でつなぐ>

- ・豊かな自然環境はもとより、わが国の近代産業の歩みをいまに伝える産業遺産も、貴重な兵庫の地域資源と言える。産業遺産が地域史において果たした役割を「物語」として紡ぎ、再評価する動きが見られるほか、工場群や鉄道なども新たな観光資源として注目を集めている。

= 鉱山跡を観光資源として活用(養父) =

かつて日本一のスズ鉱山として栄えた明延鉱山の歴史を後世に伝えるため、坑道の一部を探検坑道として観光客等に案内している。

また、鉱石の輸送に使われた明神電車(一元電車)も、観光資源として活用されている。

探検坑道内の様子



一元電車

専門家の意見

- 少なくとも1泊して、産業遺産群を体験してもらう滞在型ツーリズムへの転換が必要。
- 産業遺産を活用する人材、例えば旧坑道作業者や若者、外国人など外部人材を担い手として迎え、新たな就労の場として産業遺産を活用することも検討する必要がある。
(地域空間再生検討チーム)

<まちなみを地域資源として生かす>

・県内には、神戸の開港に伴い開発された居留地や異人館街、阪神間モダニズムの舞台となった阪神間、清酒のふるさと灘五郷など、個性豊かな歴史的背景を有する地域が多数存在している。

= まちなみと共存する店舗展開(神戸) =

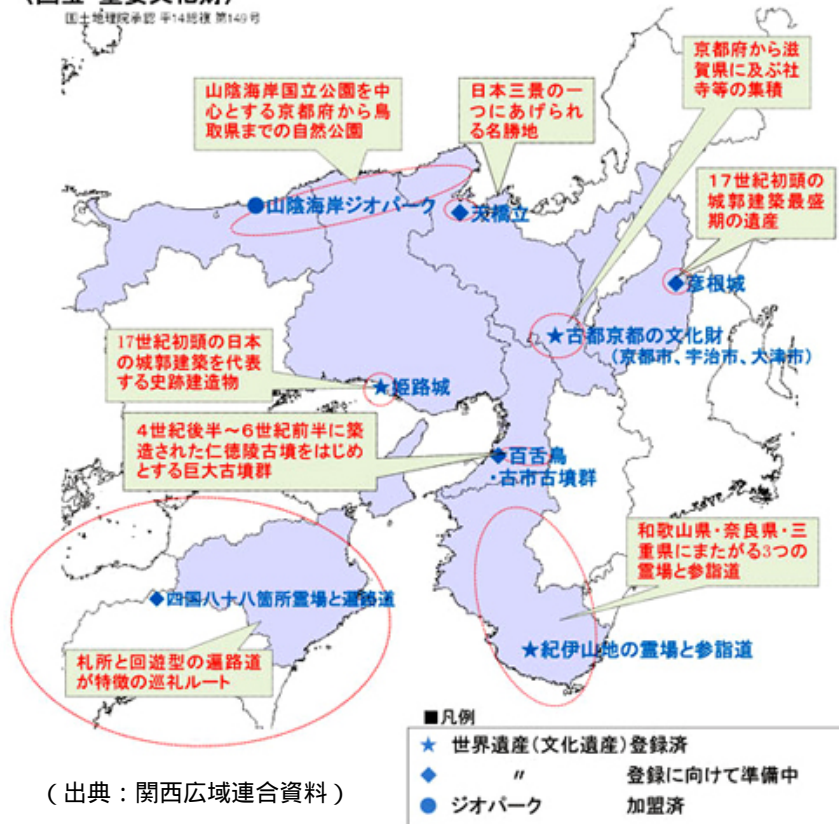
衣料品などの企画、販売を手がける県内企業。市内にセレクトショップを出店。2009年度(平成21年度)には、(財)神戸ファッション協会と連携し、県内の地場産品の情報発信・販売を実施した。

社の代表は、「海運業が栄えた神戸の古き良き下町感の空気を残している乙仲通のまちなみと店構えとのマッチ感が大事。こういう普通の暮らしが共存しているまちなみを保存する取組が必要」と訴えている。

<関西の魅力ある観光資源をつなぐ>

- ・兵庫は、関西圏をはじめ、中国・四国地方と交通ネットワークで直結し、生活、歴史、文化などさまざまな面で、共通の「物語」を有している。
- ・成長著しい東アジアや、関西の伝統文化に関心の強い欧米諸国からの旅行者を主な対象として、関西の魅力ある観光資源を有機的につなぐ「広域観光ルート」を提案し誘客を図ることが期待される。

〈国宝・重要文化財〉



取組の視点

地域をつなぐ「物語」型ツーリズム

(3) 高度な経営基盤により力強い産業としての農林水産業が再生し、食の自立を支えている

集落営農や企業参入などによる農地利用集積の拡大、上下流連携のしくみづくりなどにより、効率的で安定的な農林水産業の経営基盤が確立している

- 新しいしごとの場として新規就農にチャレンジする高齢者や若者などが増え、地域に溶け込みながら、活気ある農林水産業を実現している。
- 集落営農や企業参入、広域的な集落連携などの多様で高度な経営スタイルにより、農地利用の集積拡大や人材育成、技術開発に取り組む経営体が増え、安定した生産・流通が実現している。
- 上下流域の住民や農林漁業者などの連携による森林・漁場保全の取組や、小規模私有林の集約管理のしくみづくりが広がり、豊かな森林資源や漁場が育まれている。
- 大学、研究機関などとの積極的な連携により、都市での植物工場や、フグ、アワビなどの栽培漁業、水資源の活用などにおける技術開発が進み、食と環境の世界的な先進地となっている。

始まっている取組等

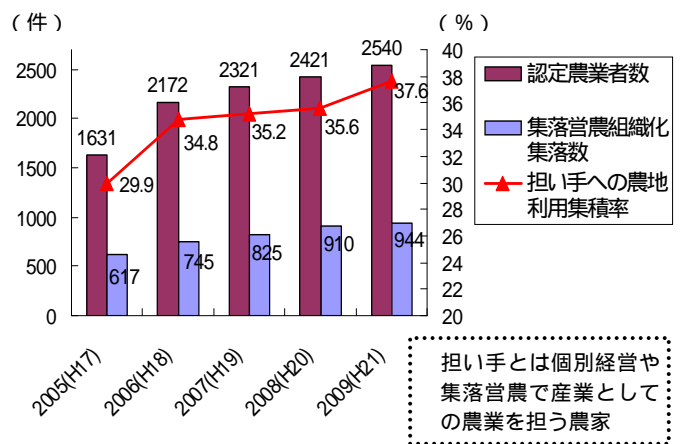
< 集落営農など多様な農業経営の展開 >

- ・ 集落をベースとした営農組織化の取組や、農業経営基盤強化促進法に基づく農業経営改善計画の認定を受けた認定農業者は増加傾向にある。
- ・ こうした事業者などへの農地利用集積を進め、地域に適した効率的で安定的な経営基盤を確立することで、力強い産業としての農業展開が期待される一方、次世代のリーダーとなる人材育成や、都市との結びつきや情報通信技術を最大限活用した販売網の整備などが求められている。
- ・ 意欲ある企業の農業参入は、建設業や食品業を中心に近年増加傾向にあり、2009年(平成21年)の農地法改正による規制緩和を受け、今後も企業などの参入増加が見込まれている。

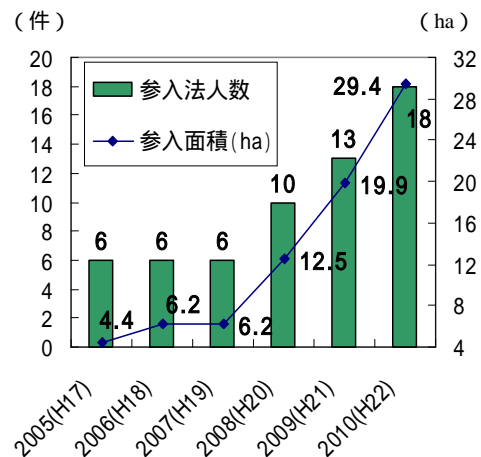


ひょうご農業MBA塾では、企業的感觉を備え、地域の農業経営モデルのリーダーとなる人材を育成。

【認定農業者数、集落営農組織化集落数の推移、担い手への農地利用集積率の推移(兵庫県)】



【企業等の農業参入の状況(兵庫県)】



H21年12月までは法改正前の特定法人貸付事業による参入件数。H21年度は12月末時点の累計、H22年度は8月末時点の累計。

(出典: いずれも兵庫県農業経営課資料を基に県ビジョン課作成)

= 都市への植物工場の立地 =

施設内で植物の生育環境（光、温度、湿度、二酸化炭素濃度、養分、水分など）を制御して栽培を行う植物工場の立地が全国的に進みつつある。臭気、騒音などが発生しないことが特徴。マンションの一室を工場にする事例（千葉県）や、自社ビル内にショールームを設置する事例（大阪市）も見られる。

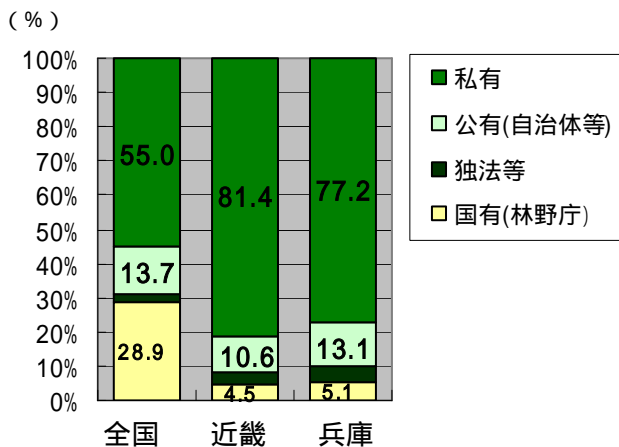


「尼崎レタス」を生産している工場（尼崎）

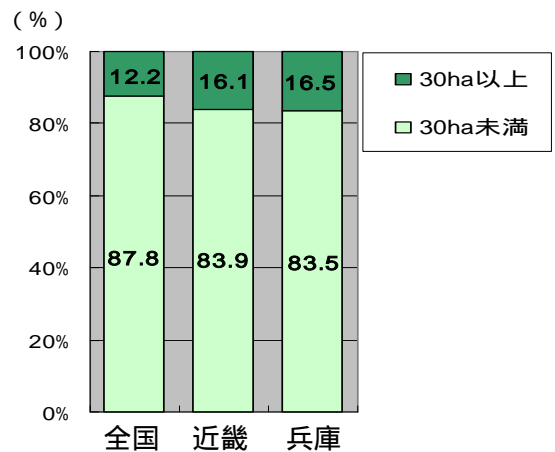
< 広がりつつある森林管理の取組 >

- ・ 県内の森林は私有林が大部分を占め、30ヘクタール未満の小規模林業者が多い。
- ・ 県では、人工林のうち間伐対象森林（45年生以下のスギ・ヒノキ林）の間伐実施率100%をめざして、市町と連携して公的管理の充実に取り組み、森林の持つ多面的機能の発揮に努めている。（2011年度（平成23年度）までの目標整備量87,500ヘクタール）
- ・ また、森林に親しみながら、森林の大切さや保全の必要性を学び、森づくり活動に取り組む森林ボランティアの活動も広がりつつある。

【森林の所有形態の割合】



【保有山林面積規模別でみた林業経営体の割合】

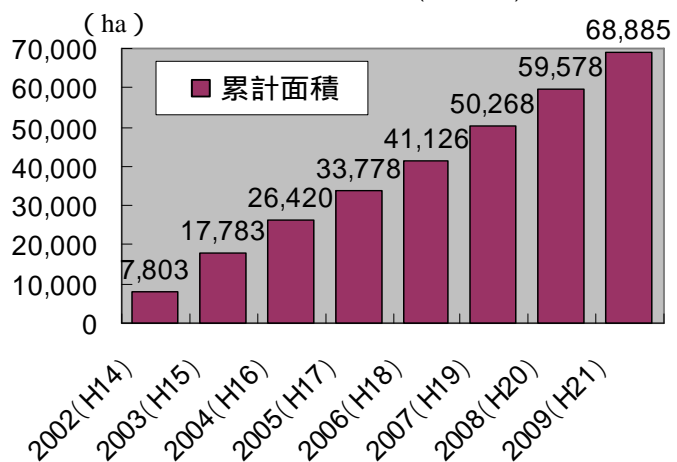


（出典：2010年世界農林業センサスを基に兵庫県ビジョン課作成）

【森林管理100%作戦（兵庫県）】



森林ボランティア講座で、植栽、下刈、間伐、里山林整備などの実習体験

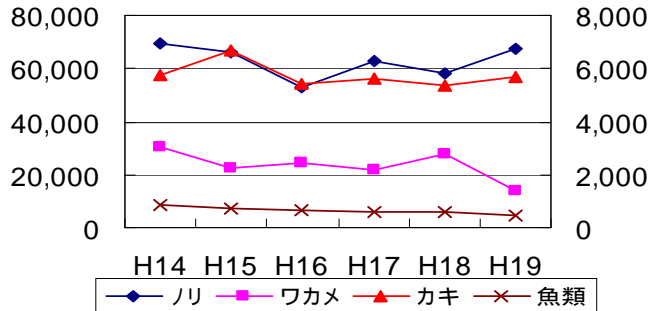


（出典：兵庫県農政環境部資料を基に県ビジョン課作成）

< 獲る水産業から豊かな海づくり、育てる水産業へ >

- ・全国的に「魚離れ」が進む中、地元でとれた安全安心な魚介類を普及させるため、幅広い世代に向けた取組が行われている。また、水産資源の持続的活用や、水産基盤の整備、つくり育てる漁業の推進などにより、豊かな海の幸を安定的に供給する取組が始まっている。

【県内の養殖業の種類別生産量の推移】(単位：トン)



- ・カキ養殖は西播磨を中心に、近年の技術向上により年間5,000tを超える生産量を維持。地域の特産品として高く評価されている。
- ・魚類養殖は淡路島や坊勢島が中心。コスト増や価格低迷により生産量は減少傾向であるが、近年はとらふぐや鯖など、天然魚にも負けない養殖魚の生産も進められている。

- 1 ノリは左軸、ワカメ、カキ、魚類は右軸
- 2 H13～15年の魚類はマダイ、ヒラメを含まない。
H17～18年の魚類はマダイを含まない。
H19年の魚類はブリ類のみ。

(出典：兵庫県農政環境部資料)

県民の意見

- 県内水産物資源では淡路が約3割のシェアを占め、貴重な地域資源である。
(淡路地域夢会議)

< 地域と地域のつながりで活性化する農林水産業 >

- ・広域的な視点を持ちながら、さまざまな主体の協働により、持続的な農林水産資源の保全、農林水産業の活性化に取り組む動きが見られる。

= 森林の一括管理による大規模間伐の実施(丹波) =

上下小倉共有山管理組合では、地域住民の同意を取り付け、森林の一括管理のしくみづくりに成功。民有林、共有林合わせて330ヘクタールに及ぶ森林の大規模な間伐を実現した。



管理の行き届いた森林(丹波)

= 中山間地域等直接支払制度を活用した集落間連携 =

中山間地域での持続的な農業生産活動などを確保するため、集落協定を締結して農業生産活動を5年以上継続する集落などを対象に、交付金を交付する制度。2010年(平成22年)度からは、飛び地なども対象農用地として取り込めるようになり、また近隣の集落間連携による小規模・高齢化集落への支援を推進するため、「小規模・高齢化集落加算」が設けられた。



中山間地域等直接支払制度を活用した直売所(上郡)

= ため池の浚渫に取り組んでいる漁業者(淡路) =

豊かな海を取り戻し、次代を担う若者たちに引き継ぐため、砂が締め固まった海底を掘り返す、海底耕運に取り組む漁業者もいる。この漁業者は、栄養豊富なため池の水が海の魚介類を豊かにするとの考えから、農家と連携して、ため池の泥さらいにも取り組んでいる。

取組の視点

経営基盤の高度化による農林水産業の振興

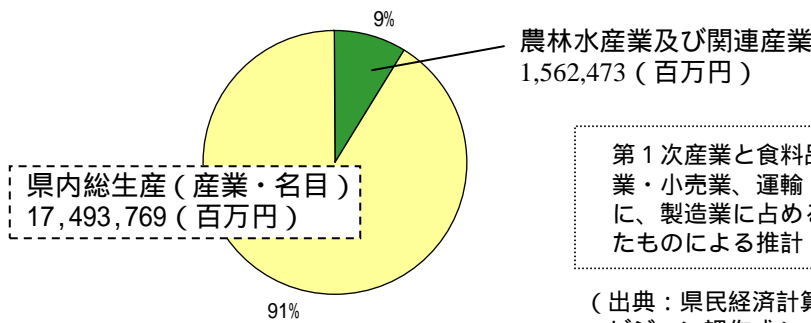
- (3) 高品質で安全安心な県産農林水産物のブランド化や6次産業化の推進により、地産地消が広がるとともに、国内外に販路が拡大している
- 多様な自然環境や大消費地への近接性など兵庫の地域特性を生かして、消費者と生産者が共に支え合う「県産県消」のしくみが定着している。
 - 6次産業化が進むとともに、高品質で安全安心な兵庫ブランドが国内外で評価を高め、成長産業として兵庫の経済を支えている。

始まっている取組等

<多角化や農商工連携による6次産業化の取組>

- ・6次産業化とは、地域の第1次産業とこれに関連する第2次、第3次産業（加工・販売など）の融合による業態展開のこと。安定的な食料供給、価格形成をめざして、農林水産物の高付加価値化や、食品関連産業などとの農商工連携など、新たな取組が始まりつつある。
- ・第1次産業としての農林水産業が県内総生産（名目）に占める構成比はおよそ0.5%であるが、第1次産業の枠を越えて、農と食に関わる産業のウェイトをみると県内総生産のおよそ1割を占めている。

【県内総生産（名目）における農林水産業及び関連産業の構成比】



第1次産業と食料品加工業の合計に加えて、卸業・小売業、運輸・通信業、対個人サービス業に、製造業に占める食料品加工業の割合を乗じたものによる推計

（出典：県民経済計算（平成20年）を基に兵庫県ビジョン課作成）

= 地域プレミアム食品の開発をめざした

地元産完熟小麦の栽培（たつの）=

農業者・加工業者・研究機関・行政の連携による地域プレミアム食品開発の例。県内醤油メーカーが、完熟栽培の地場産小麦を用いて最高級淡口醤油を開発。経済産業省の農商工連携88選にも選ばれた。



地場産小麦を用いた淡口醤油

= 広がりはじめたファーマーズマーケット（神戸）=

県内都市部の商店街で、毎月1回程度、県内産の野菜等を販売するファーマーズマーケットを開催する動きが広がりを見せている。



北野マルシェ（中央区）



神戸水道筋まちわら交流市（灘区）

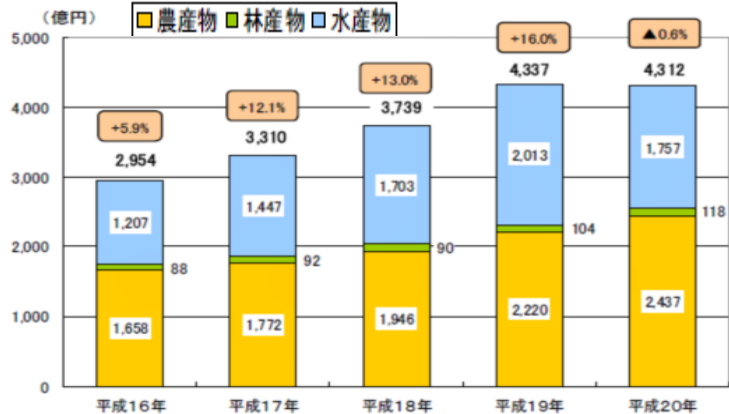


元町一番街水曜市（中央区）

< 農林水産物の販路拡大の動き >

- ・ 農林水産物の輸出額は近年増加傾向が続き、有機農業などによる安全安心な県産農林水産物に海外市場からの目が集まりつつある。

【農林水産品の輸出額の推移（全国）】



県民の意見

- 自然から得られるものを産物として、海外品に負けないものとして売ることはできないか。
(中播磨地域夢会議)

(出典：農林水産物・食品の輸出実績 (農林水産省))

= 安全安心な県産品を海外へ (南あわじ) =

この企業ではH A C C P対応の食品加工場を新設し、水産加工施設で県第1号となる食品衛生管理プログラムの認定商品を製造。

わかめの佃煮や淡路ダコ、くぎ煮などの淡路産品をタイ・台湾・シンガポールへ輸出。ヘルシー食材として人気を博している。

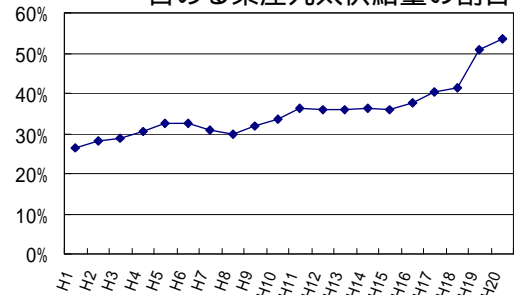


特産加工品を海外へ輸出

= 「有機の里」に世界が学ぶ (丹波) =

旧市島町にある「有機の里」が国内外の有機農家や消費者の注目を集めている。地域の有機農家の取組の見学会には、アメリカやフランスなどから多数が参加した。

【県内木材加工業における丸太需要量に占める県産丸太供給量の割合】



(出典：木材需給報告書 (農林水産省))

< 県産木材の需要拡大と地産地消の取組 >

- ・ B R I C s 諸国や中近東での木材消費の拡大による外国産材の輸入の減少や、主伐期の到来した国内人工林の増加等により、県産木材 (丸太) の供給割合は増加傾向にある。

= 兵庫木材センターの始動 (宍粟) =

2010年 (平成22年) 12月に始動した「兵庫木材センター」は、原木の生産・製材・加工・製品販売を一貫して行う県内初の大型製材工場。

22万ヘクタールの人工林資源が成熟化する中、県産木材の安定供給を担う。

加工・流通経費を削減し、利益を森林所有者に還元できる循環型林業の中核的施設として役割が期待されている。



兵庫木材センターが始動

取組の視点

高品質で安全安心な県産農林水産物のブランド化の推進

(4) 暮らしを豊かにする新たな生活産業が成長するとともに地域商業が再生している

高齢社会のニーズに対応し、暮らしをより豊かにするさまざまな生活関連サービスが生まれ、地域を支えている

- 高齢者や障害のある人などの暮らしを支える医療・介護分野、安全安心な食の確保などの分野で、人と人とのつながりを結わえ直す新しいビジネスモデルが生まれ、地域に持続性のあるなりわいをもたらしている。
- 住民起業による小さなビジネスなど、住民自身が主役となるしごとが地域に定着し、地域の暮らしと雇用を支えている。

始まっている取組等**<高齢社会の生活支援サービスの広がり>**

- ・今後、農村だけでなく、都市でも単身高齢世帯や要介護者の増加が見込まれている。このような高齢社会を支えるため、高齢者の配食サービスや見守り、買い物代行や旅行での付き添いなど、さまざまな生活支援サービスが必要となってくると考えられる。また、生活関連施設を維持するため、学校区単位などで施設の集積を図ることも考えられる。
- ・このような生活密着型のサービスに取り組むNPO、企業、社会福祉協議会などが増えつつあり、住民の共同出資で施設を運営している例もある。地域を持続的に支える産業として、より浸透していくことが必要である。

= 村営ふれあいマーケット（神河） =

神河町長谷地区の住民が資金を出し合って株式会社をつくり、店舗とガソリンスタンドを経営。県民交流広場を併設したことで、高齢者だけでなく、子連れのイベント参加者などが立ち寄り住民の交流の場となっている。



村営ふれあいマーケット

= まちとむらをつなぐ移動販売（佐用） =

さようまち・むら両立プロジェクト協議会が主体となり、山間地域などの移動困難地域と商店街を移動販売車で結ぶ取組を始めた。商店街の空き店舗を活用した農産物集荷・配送拠点をつくとともに、移動販売車を活用して山間部の集落で食料品、雑貨などを販売している。



移動販売車

= 地域の協働で移動手段を確保（宍粟） =

自治会などが運営母体となり、コミュニティバス「思いやり号」を運行。県内各地域で、住民や企業、自治体等が協力し合い、コミュニティバスやデマンド（予約）型乗合タクシーを運行する取組が進んでいる。



コミュニティバス

<地域づくりを支えるファンドの登場>

- ・資金面・運営面の双方からきめ細かな活動支援を行う中間支援組織（NPO）が成長している。また、小口の資金を束にして、森づくりなど地域空間の再生に投資する動きが拡大している。

= NPOの資金調達等を支援（宝塚） =

ソーシャル・デザイン・ファンドでは、NPOの活動を支援するため、オリジナル商品の販売やコンサート、アートイベントなどを通じた資金調達や基金運営を実施。事務局業務の支援や、行政・企業とのコーディネートなども実施しており、NPOの発展性・継続性を支援している。



ソーシャル・デザイン・ファンドの活動

<地域再生人材育成の動きが活発化>

- ・全国的に地域づくりの専門人材を育成しようとする動きが活発化している。兵庫県立大学では、経済学研究科地域公共政策専攻を開設。自然・環境科学研究所でも地域再生を担う人材の育成を検討している。

= 兵庫県立大学「経済学研究科地域公共政策専攻」 =

地域経済の停滞、農山村・漁村の過疎・高齢化など地域社会が抱えるさまざまな課題を解決するNPO、社会的企業及び自治体職員などを養成。地域社会の諸問題に対応できる実学を重視しつつ、経済学の専門領域を中核とした多様な専門領域を取り入れ、特色あるカリキュラムを実施している。

専門家の意見

- 地域にあるビジネスチャンスはどうやってセットアップするか。空き校舎があれば、そこで若者の職業訓練をするといったことは事業として成り立つはず。場所の存在、使える条件などを見える形にすることが重要だ。
（ソーシャル・デザイン・ファンド）

取組の視点

高齢社会のニーズに対応した多様な生活関連サービスの展開
住民が主役で生み出される新しい地域のしごと

- (4) 空き店舗の活用やさまざまな地域産業との連携により、多様な消費者のニーズと、地域のまちづくりに対応した地域商業の再生が進んでいる
- 高齢社会の中で、地域の小売業やサービス業が情報通信技術などを活用して消費者と直接つながる「顔の見える商い」が見直されている。
 - 地域の中小企業や自営業者とそれを支える地域金融、事業所関連サービスなどの異業種連携が深まり、地域商業が活性化している。
 - 空き店舗を活用した安全安心の拠点づくりや、空間の「所有」から「共有」への転換など、まちづくりと一体での取組により、商店街が再生している。

始まっている取組等

<商店街の再生に向けた取組>

- ・県内各地域の商店街では、増加する空き店舗などを活用して、地元産の安全安心な農林水産品を販売する直売所の設置や、地場産業と結びついたテーマ型の商店街づくりなど、さまざまな手法で、にぎわいの再生に取り組んでいる。
- ・また、駅前など立地条件のよい商店街が、「所有と利用の分離」を進めることで消費者ニーズに応じた店舗の入れ替わりが可能となり、都心回帰したスーパーなどと共生しつつ、にぎわいを取り戻している事例もある。

= 空き店舗を活用して回遊性を強化（篠山） =

篠山市内の商店街などでは、2004年（平成16年）に空き店舗を活用し、雑貨販売やイベントなどを行う集客施設を整備。商店街の回遊性の強化をめざした。

また、「丹波篠山ブランド」の特産品を全国的にPRするため、インターネット販売などにも取り組んできた。

こうした取組により、地元客の集客増、観光客のリピーター化などの効果を上げている。



集客施設(篠山)

= 核店舗の集客力によりにぎわう商店街（神戸） =

水道橋商店街のスーパーマーケットが核店舗となり、周辺店がにぎわう相乗効果が発生。八百屋が増加したことで、八百屋ストリートとも呼ばれる。また、ドラッグストアの出店により、商店街になじみのなかった若年世代の来街者が増加。

空き店舗の看板を張る前に新しい店舗に置き換わるハッピータイヤが増加した。



水道筋商店街(神戸)

県民の意見

- 水道筋には核店舗となるスーパーがあり、周辺店舗にも相乗効果が出ている。水道筋に行けば安くてよいものが買えるというイメージができていて、人が集まる。（水道筋商店街）

= 中心市街地の活性化の取組（豊岡） =

豊岡駅通商店街では、市と協力して空き店舗への出店者の支援に取り組む。卓球専門店、蒸しパン店、白いたい焼き屋など、これまでこの商店街になかったタイプの店舗が進出した。

また、宵田商店街では、地場産業である「カバン」をテーマに、異業種の店舗とも協力して、オンリーワン型の商店街活性化を実施している。



宵田商店街(豊岡)

= サブリース を活用し空店舗を廉価に貸し出し（加古川） =

寺家町商店街では、市役所、商工会議所、観光協会、地元企業が構成員の「チームかけはし」が、第3セクターならではの信用力を基に空き店舗の活用取組を実施。「ハード整備はしない」、「イベントはしない」をポリシーに、サブリースを活用し、空店舗を廉価に貸出すことで、閉まっているシャッターを開けようという活動をしている。

写真は、「チームかけはし」の仲介により、長年空き店舗となっていたスペースを活用してオープンした古着屋。



寺家町商店街(加古川)

サブリース：不動産会社など（サブリーサー）が所有者から建物・付帯施設などを一括賃借し、運営管理を請け負うとともに、第三者に小口貸借するしくみ。

= 民家を改装したホームホスピス（尼崎） =

訪問介護事業を行うNPOが、民家を改装し、末期がんや脳梗塞により一人暮らしが難しい人のためのホームホスピスを運営。

スタッフが常駐して身の回りや食事の世話をし、必要な医療は主治医の往診を受け、本人・家族が安心して死と向き合える環境を提供している。

専門家の意見

- 中心市街地活性化がうまくいっていないのは、結局個人に頼っているから。中心地のテーマの明確化、コンセプトづくりが重要である。（県内食料小売販売企業）
- これからはアーケードの撤去に金を使う時代。シャッター街を普通のまちなみにすることも必要ではないか。（大学教授）

取組の視点

消費者のニーズや地域のまちづくりに対応した商店街の再生